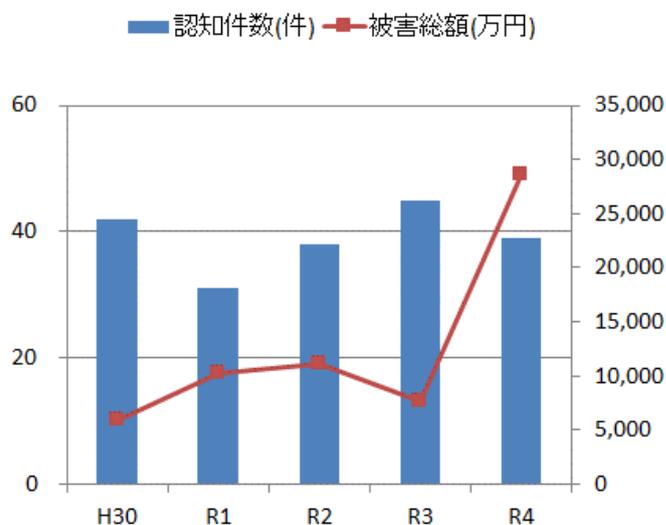


## 令和4年中における特殊詐欺の認知・検挙状況について（確定値）

### 1 県内の認知状況

#### (1) 認知状況の推移

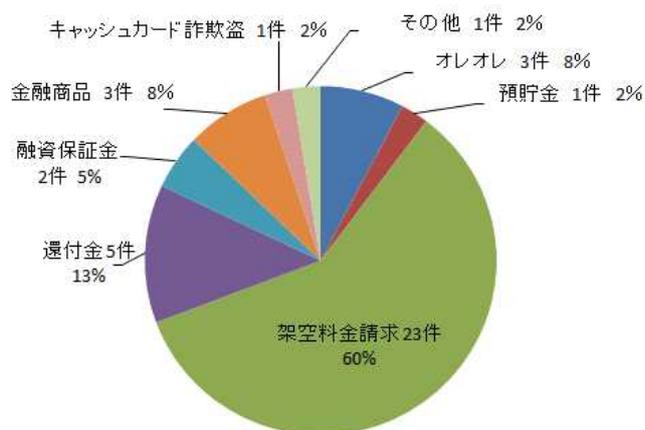


	H30	R1	R2	R3	R4
認知件数(件)	42	31	38	45	39
被害総額(万円)	5,850	10,280	11,174	7,584	28,607

※ 令和元年から、認知件数・被害額には窃盗（キャッシュカード詐欺盗）を含む。

○ 昨年まで比べて、認知件数は横ばいだが、被害額が増加した。

#### (2) 手口別の認知状況

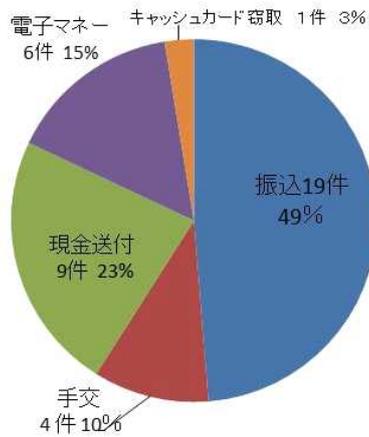


	R3	R4	前年比
オレオレ	2	3	+1
預貯金	0	1	+1
架空料金請求	11	23	+12
還付金	30	5	-25
融資保証金	1	2	+1
金融商品	0	3	+3
ギャンブル	1	0	-1
交際あっせん	0	0	±0
キャッシュカード詐欺盗	0	1	+1
その他	0	1	+1
計(件)	45	39	-6

○ 架空料金請求詐欺の認知件数が最も多い。（全体の6割）

○ 令和2年から、オレオレ詐欺の手口が細分化され、預貯金詐欺の分類ができたもの。（細分化の詳細については「特殊詐欺の手口について」を参照）

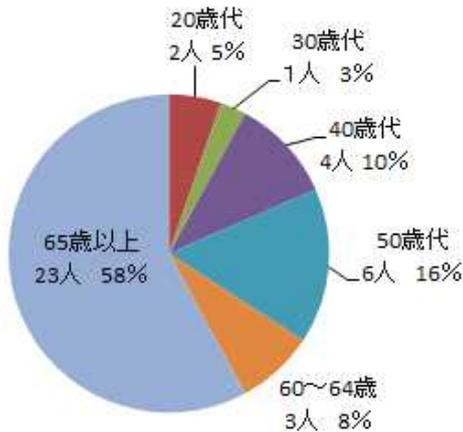
### (3) 交付形態別



	R3	R4	前年比
振込	39	19	-20
手交	1	4	+3
現金送付	2	9	+7
電子マネー	3	6	+3
キャッシュカード窃取	0	1	+1
合計(件)	45	39	-6

○ 振込型が最も多い。(全体の約5割)

### (4) 被害者の年齢



年代	R3		R4		前年比
	男	女	男	女	
10歳代	1	0	0	0	-1
20歳代	0	1	1	1	+1
30歳代	0	2	1	0	-1
40歳代	0	2	2	2	+2
50歳代	1	3	2	4	+2
60~64歳	1	5	0	3	-3
65歳以上	2	27	3	20	-6
合計(人)	5	40	9	30	-6
	45		39		

○ 65歳以上の高齢者の被害者が最も多い(半数以上)

## 2 県内の検挙状況

区分	H30	R1	R2	R3	R4	前年比
検挙件数(件)	7	25	36	10	13	+3
検挙人員(人)	3	9	8	4	4	±0

○ 令和元年から、検挙件数・人員には窃盗(キャッシュカード詐欺盗)を含む。